００２　がみこ

題名	作者	コメント	評価
水中眼鏡の女（ゴーグル）	逢坂　剛	３つの短編(他、ペンテジレアの叫び、悪魔の耳)暗くて特殊。つまんないとは言わないけれど、電車の中の暇つぶしにはいいかもしれない。	☆☆
海辺のカフカ	村上 春樹	3つの話が繋がっていて、最後には1つになっていく。途中まではナカタさんとホシノさんが好きで楽しかった。村上春樹の蘊蓄も、メモったりして・・でもやっぱりわかんない。「あなたの胸には、飛び込めないわ・・」という感じ。文句言いながらもメモまでとってわかろうとするんだから好きだと思うでしょう。でもダメ・・誰か説明して・・(説明されてもわかんなかったりして・・)	☆(これはナカタさんに捧げちゃう)
雪が降る	藤原 伊織	６篇の短編の文庫本。「テロリストのパラソル」を書いた人で、堅いし暗いけど、読んでて嫌な気はしない。電車のお供にいかが・・	☆☆☆
手紙	東野 圭吾	犯罪者・被害者の身内の人の話しがこの頃多い。これもそのひとつ。すごく考えさせられた。でも結論は出てない(と、思う)。誰にも正しい答えなんて出ないんだろう。周りの人間関係もあるだろうし。社会性についても考えた。私には今社会性があるのだろうか・・	☆☆☆
変身	東野 圭吾	荒唐無稽な話だから(脳移植)、次に何がくるのかわからなくて、読んでしまった。それだけではなく自分の意識が消えていく恐怖を含めて、話の視点に感心してしまいます。脳移植って本当に出来るのか？感覚では出来ないに軍配があがるだけどなぁ・・	☆☆☆
顔	横山 秀夫	さらっと読める逸品。若い婦警を通して、警察内部の問題を書いたもの。重苦しいわりには、すらっと読め、嫌な気もしない。どこでも大変なんだと思いました。	☆☆☆